

# 精読

We all know from a study of history the progress of the working people.

## <手順>

1. まずは全体に目を通し、**授業で学んだ論点と関連し得る部分**が無いかな等を確認する。
2. 接続詞系の処理を行う (① **and / or / but** といった等位**接**や②それ以外の**接** / **関** / **疑**といったSV構造を持つもの)。
3. **前** + **名** を (      ) に入れる。
4. (      ) を**無視して文型を決定**する。
  - ① **V** を掴む。
  - ② **V** の前にあるものは先頭にある**副** (カタマリ) を除いて**カタマリでも“S”** と見る。
  - ③ **V** の性質を考慮して残りの要素を確定させる (ex. **他V → O** を取らせる)。
5. まずは**頭の中で「直訳」**を作ってみる。
  - ① S (カタマリ) から訳し始める (先頭に**副** (カタマリ) があればそれを最初にする)。
  - ② 残りは後ろから掛けながら訳し上げる。
  - ③ SV を含むカタマリがある場合には、その中でも「① → ②」を行う。
6. その英文の**「意味」**を掴もうとする (「5」の直訳を反芻したり、常識的に考えてどのような文と見れば意味が通るか等を検討したりする)。
7. はっきりと**「意味」**が把握できたところで、それを**自然な日本語で書き出す**。

## < 諸注意と復習方法等 >

0. 復習には「**白文**」が必要となるため、精読の訓練に際しては問題のコピーを用いる等する。

1. **必ず毎日行う。**

2. いわゆる**初見のものを5～6題程度は解く**ようにする。

3. ①**構造を間違いなく理解すること**、および②**英文の「意味」を正確に把握すること**が訓練の目的であることを常に念頭に置いて行う。

4. しっかりと「**意味**」が分かって**訳を書いてから答え合わせをし**、解説を読む（時間のほとんどは「**考える**」という過程に割かれるべき）。

※ 但し「**解釈の技術**」の一部不可解な説明は余り気にすることはない（つまらない「**用語**」に拘泥せず「**方法**」の獲得を目指すこと）。

5. 復習は次のことを正確に理解して行う。

① 今度は「**前から**」読んで「**意味**」を把握する訓練をする（「精読」の技能を利用しつつも、また別のことをする訓練を行う）。

② 「精読」の際に掴んだ**構造を意識しながらこれを行う**（これをしなければ完全に無意味）。

③ 「前から」ということに拘泥し過ぎることはないが、なるべく「**振り返り**」をしないよう努めてみる。

④ **最終目標は日本語にしなくても英文の「意味」が前から普通に読んで分かるようにすることにある。**

⑤ 但し「③」の目標は**凄まじい回数**の訓練を経ない限り達成され得ないことを理解する。

⑥ この復習を兼ねた「**前から読む**」ための訓練もまた、**必ず毎日行う。**

⑦ 1日に**最低でも50英文は読む**（一度「精読」をしたものなのでこれでも控えめな数字である）。

⑧ 前からでは読めないものがあれば今一度「精読」を試み、再挑戦した上で解説を見る（終えてからまた「前から」読んでみる）。

⑨ 余力のある者は完全に前から理解できるようになった英文を自宅等で音読し、そうする中でも「意味」が把握できるようにする。

※ 絶対に自習時間をこの「音読」には充てない（特に現役生がこのようなことに自習時間を使ってしまうことは致命的な誤りである）。